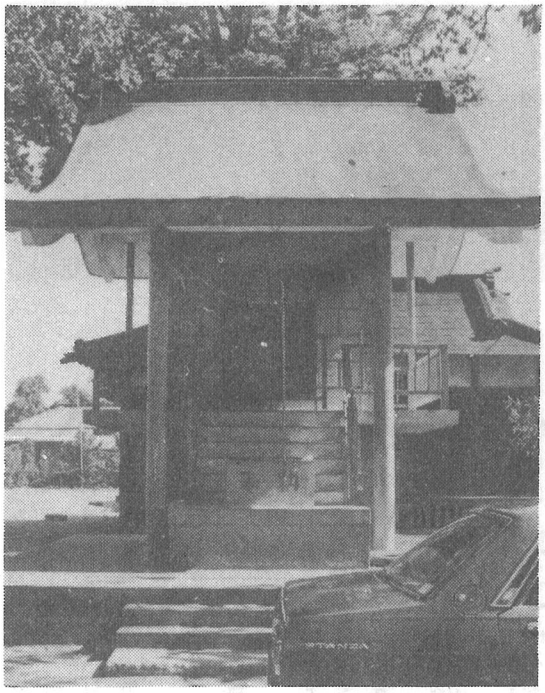
横芝の碑（その七十一の二）

稲荷信仰と児童施設

〈碑が伝える黒野さんの陰徳〉

稲荷様は暫らく黒野さんの庭に祭られていましたが、この稲荷様が有名な豊川の吒枳尼真天（だきにして）稲荷の分神であることや震災時の奇蹟を伝え聞き「是非参拝させて下さい――。」と請願する人が沢山出てきました。黒野さんでは稲荷の祠を道路に向けて建て直し、誰でも自由に拝めるようにしましたので、参詣の人は更に増え、時には油揚や赤飯が供えられ、子供さんが手作りの紙織を奉納する場面も見受けられました。そうした信者の中には、地元での衆望を担う方もいて「東町区の信者共有の稲荷様として祭らせてもらえないか、」という話が出てきました。丁度黒野さんも、「こんなに大勢の熱心な信者があり、子供までがお詣りする神様を個人の神としておくのは勿体ない、」と考えていた時でしたから「稲荷神社の敷地として二反歩（二十アール）を奉納し、一切の祭り保管運営行事を東町区の信者に任せたい」と申し出をされたのです。喜んだ信者の皆さんは、当時知識人として、また人格者としても横芝屈指といわれ、しかも神職であった押尾貞澄さんの指導を得て、稲荷神社崇敬会という団体を編成し「今後の社殿造営維持管理、一切の祭り行事などに粗相のない扱い」を黒野さんに誓って稲荷様の御神体・祠・敷地一円を無償で譲り受けたのです。

これが現在の児童館や保育所が建っている場所で、碑に用場提供の方法が寄附とは刻まれず、奉納と刻まれている理由なのです。

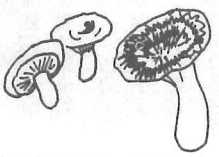


▲「初午には舞台も…」稲荷様の社殿

当時はまだ青年であったという地元の大木茂雄さんは「昔の稲荷様は随分栄えたものです。初午には舞台が組まれ、いろいろな催しもありました。子供達には甘酒や餅など配られたりしましたので、初午が近づくと、「稲荷様のお祭り」と言って指を折って楽しみに待ったものです。それもいつしかすたれてしまいました。淋しいことです。私は当時の子供達の楽しみを今の子供達にも分けてやろうと、自分で薪や米を用意して餅を搗いて児童館で食べさせたりしました。それが二反歩もの土地を提供された黒野たかさんに対する追善供養と考えたんです。碑にも刻まれていますが、黒野たかさんの稲荷信仰から児童館も保育所も出来たことを忘れてはいけませんよ。」と訓（いいきか）すように話してくれました。

尚、この児童館も周知の場所なので案内図は省略しました。（本稿取材にあたり、栗山才四の石川太四郎さん、東町の大木茂雄さんのご協力とご指導を頂きました。）

文化財審議会委員　小沢春光氏寄稿



お聞かせください　今日一日のあなたの足どり

千葉県都市部では、今月から十二月上旬にかけて、パーソントリップ（人の動き）調査を行います。

この調査は、どんな人が、どんな目的で、どういう方法で、どこからどこへ、何時ごろ移動したか、というような〝人の一日の動き〟を知ることにより、交通実態を把握して今後の総合的な交通対策に役立てようとするものです。

調査は、統計手法に基づいて抽出した四〇世帯の中から、十月一日現在で五歳以上の方を対象に行います。

調査方法は、調査対象者に事前に葉書で訪問予定日をお知らせし、後日調査員が家庭訪問により行います。

なお、調査票に記入された内容については、本調査の目的以外には絶対に使用することはありませんので、安心をしてありのままをご記入下さるよう、ご協力をお願いします。

この調査に関するお問合せは、東京都市圏交通実態調査実施本部

千葉市中央四の十七の三袖が浦ビル（☎0472(25)4021）まで。